

都市公園の夜間利用を考える

及川純一（岩手）

1 はじめに

公園の夜間利用という、週刊誌的発想をなさる向きが多い。なぜなら、それは週刊誌でしか扱わない題材であったし、今でもそうだからである。しかし、公園の夜間は性的興味の場ではない。そこは恋愛の場であり市民のレクリエーションの場なのである。

市民にとって夜間というものが重要な意味を持つようになってきたにもかかわらず、公園の夜間利用が学問的に研究されたことはなかった。そのことは過去の公園利用調査¹⁾をみればよくわかる。過去のものは、昼間だけの調査しかなされておらず、夜間は無視されていた。公園によっては昼間より夜間の利用が多い所も存在する可能性があり、単に昼間だけの調査では正確な利用状況を把握しているとはいえないのである。

公園の夜間利用は古くから行なわれていた。浅草公園の池辺の夜間利用が期限つきで行なわれていたのは、明治16~17年頃²⁾であった。また、同36年に開園した日比谷公園には終日燈がもうけられた。²⁾さらに、同41年7月11日付の読売新聞によれば、「昨今夜の日比谷公園、墮落男女の野合場と化す。」という記事があり、警官が取締りに出動³⁾したという。

このように古くからある夜間利用が無視されてきた理由の一つには性に関係しているからではなからうか。性はタブーであるという教育がなされ、公園の夜間というものが社会的に恥部として認識されてしまったのではなからうか。このような偏見や公園内の犯罪等について公園計画、管理の立場から何らかの対応を考えなくてもよいものだろうか。また、昼間と夜間の利用の相違が公園にどのような問題を投げかけているのだろうか。

このような疑問が都市公園の夜間利用を取上げるに至った理由である。夜間利用は我々の生活に

不可欠なものとなってきたので、今後本格的な研究を期待したい。

2 夜間利用とは

(1) 夜間利用と夜間

夜間利用とは、もちろん夜間に公園を利用することであるが、ここで夜間というものをもう少しはつきりさせておきたい。

一般に夜間というのは、日の入りから日の出までの時間をいう。しかし現代人の生活は、古代人のそのように日の出とともに起き、日の入りとともに寝るという自然のリズムからは大きく離反しており、これをここでいう夜間と断定することには無理がある。

日常生活を別の角度からみると、我々の生活時間は社会的拘束時間と私的時間にわかれている。⁴⁾社会的拘束時間とは労働を意味し、私的時間とは前者以外のすべての自由時間をいう。公園利用などのレクリエーション・買物などこれらはすべて私的時間に行なわれる。

平日の生活周期を基本にして私的時間を考えてみると、私的時間は労働解放時点から睡眠を含めて労働に拘束されるまでの時間であり、これは一般に夜間に対応している。したがってこの私的時間を夜間利用でいう夜間と考え、この時間内の公園利用を夜間利用と定義することが、我々の生活に最も合致していると思われる。休日においては平日に順じて考えることとする。具体的に何時から何時までと時間を断定することには異論があるが、3章の実態調査では便宜的に18時から翌日の6時までの12時間を夜間利用の調査時間としている。

(2) 夜間利用の位置づけ

公園の利用を時間を基準にして区分すると、図-1のようになる。年、月単位の滞在型、週単位

の週末型、日単位の日常型である。夜間利用は滞在型、週末型にも存在するだろうが、この小論では日常型の夜間利用について考察を進めていく。

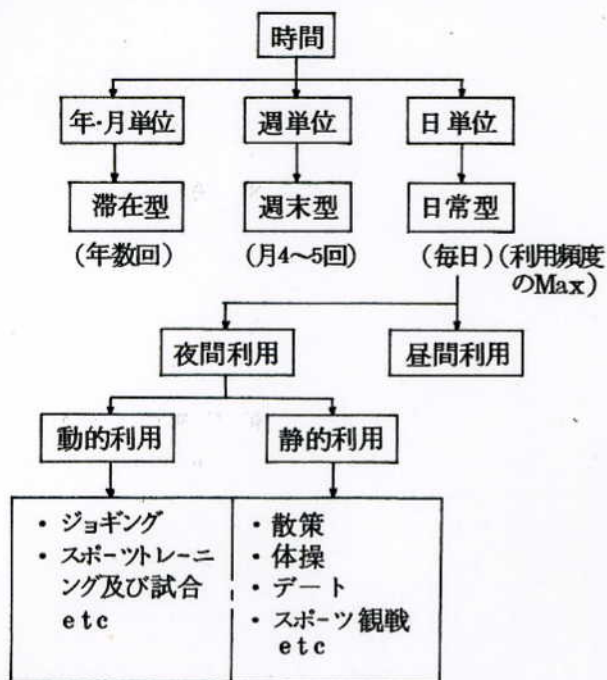


図-1 時間による公園の利用区分

夜間利用の利用行為には静的なものとの動的な利用が考えられる。静的な利用には散策・体操・デート・スポーツ観戦などが、動的使用にはジョギング・野球・ラグビーなど各種スポーツの練習及び試合などが含まれる。

(3) 公園の条件

次にどのような公園が、よく夜間に利用されているのかということを考えてみたい。

静的利用の場合、少なくとも三つの条件があると思われる。その一つは公園の質である。これは公園計画や施設管理の良し悪しに左右されることを意味している。たとえばデートコースとして公園を選ぶ時、植栽の具合、芝生の有無、ベンチの配置などが気になるし、公園内の雰囲気も恋に酔える場としてふさわしいか気になるだろうからである。次に公園周辺の土地利用が問題となろう。夜間人口の極端に少なくなるビル街の公園、住宅地域内にある公園と盛り場の近くにある公園とではその利用度は違っているだろう。最後に考えら

れることは、交通条件である。恋人たちの多くは公園の近隣在住者とはいえない。近隣に住む人々は、夕食前や朝食前の時間を利用して散歩や体操などを行なうが、恋愛の場として利用する率は低いと考えるからである。恋人たちはデートのために各所から繁華街に集まり、その一部(あるいはすべて)を公園利用にあてるのである。したがって帰宅が便利ということも必要で、駅に近い、バスが通っているなど交通条件の良い公園を選ぶことも考えられる。また、繁華街と公園との距離も恋人たちを公園へ導く決め手ともいえるだろう。

スポーツ利用の場合、施設の不足から強制的にその公園や施設のある場所へ行かなければならないのが実状であろう。

3 夜間利用の背景

(1) 終日開放

都市公園は市民の日常利用に答えるために、つまり利用したい人が利用したい時に利用できるように終日開放されている。また、都市災害、特に地震や大火災などに対する避難場所としての役割も負っており、災害の性質上公園は終日開放されていなければならないのである。このことが夜間利用の行なわれる前提条件となっている。

(2) 生活時間の変化

公園の計画は、主として昼間の利用を考慮して進められる。それは我々の生活が一般的にいつて昼にその活動の重点を置いているからである。だが、このような昼活動して夜間休息(睡眠)するという太古からの一定したリズムは、生活の多様化により変化している。現代人は朝寝坊のよっぽりという夜型人間に変化しつつあるということはいくわられることである。⁵⁾この結果睡眠を犠牲にしてまで自由な時間である夜を楽しもうとする傾向がみられ、⁶⁾夜間というものが単に休息を意味するものから、より活動的なものへと変わってしまったのである。

(3) 余暇の増大

我々は労働という社会生活を行ない、その社会性に拘束される時間と誰にも拘束されない時間の

二面性を持っていることは前述した。近年、社会的拘束時間は短縮される方向にあり、それだけ私的(余暇)が増大していることになる。この増加により人々の余暇に対する意識も変化し、それまでの仕事志向主義から仕事・余暇併立の考えが主流になってきた。⁷⁾ 余暇活動は年々さかんになっていくが、そのなかで日常生活圏におけるレクリエーション活動も増大する傾向を示し、特にスポーツの伸びは著しいであろうと推定されている。⁸⁾

(4) スポーツの普及

現代人は満性的な運動不足であり、これが高血圧・動脈硬化などの文明病の原因⁹⁾ともいわれている。しかし潜在的には運動に対する欲求は高く存在している。それが爆発的なテニスブーム・健康マラソン・ジョギングの流行などにあらわれている。筆者はかつて週2回健康維持のためにランニングをした事があったが、グラウンドは人であふれ、走るのもおぼつかないという状態であった。

また、各種スポーツも普及してきて、ママさんバレー、草野球チームなど各々のチームなども多く結成されている。これらの練習は週末だけでなく、平日の夜間や早朝にも行なわれている。

今後、市民のためのスポーツが地域に滲透していくなかで、都市公園の役割、特に夜間の利用というものが重要な存在となってくることは確かである。

(5) 性意識の変化

そもそもかつての日本人は、性に対しておおらかであったという。幼ない時から様々の性環境で育ち、性の問題を知って成長するのが普通であり、習俗、伝統であった³⁾という。それは歌垣¹⁰⁾などにみられる風俗や古典小説「源氏物語」をみるとうなづける。ところが、明治期になると、儒教的厳格主義というものが前面におしたてられた。このため性は非日常化し、否定的な教育がなされ、これが日本人に猥褻観を植えつける原因³⁾となった。

数年前フリーセックスという言葉が流行した。この言葉は明治以来の性観念を打破するには十分すぎる意味を持っていた。我々の心の底にはその意識が鮮やかに生きている。だが、その言葉の

本来の意味である「愛」を志向する性愛意識とは違った、技術と化した性愛というあまりにも快楽的志向の意識¹¹⁾としてである。そのことが性的商品化・スポーツ化を生み、電波とまでなって日本中をかけめぐり時代を迎えるに至っている。

筆者の友人に性意識というものは、独学するものと言った男がいる。考えてみれば、筆者の思春期の性教育は、男の性に無頓着であった。必然的に、少ない性の情報をかたづけしから集取し、むさぼり読み、自分なりに消化しなければならなかった。現在の性教育がどうなのかよく知らないが、性情報は無制限に多い。幼い頃から性的な情報にかこまれて育つと、思春期以前に性的意識が開発され、二次性徴期の頃にはすでに特定の異性に対する性の関心を強めていく¹²⁾という。それはかつての習俗・伝統としての性意識とは違ったものであり、「愛=セックス」という考えが多くの青少年に植えつけられているということは否めない。そして、その行動が何の抵抗もなく現実化されてきているのである。その一例を表-1に示す。これは特定の恋人を持っている都市部の高校三年生について調査(昭和47年)したものである。¹²⁾

表-1 交際度

	キス	ベッティング	性交
男	58.0%	40.0	24.7
女	58.8	14.7	2.9

このような行動はもはや都市と農村に差がなくなりつつあるし、性交初経験も中学あるいは小学へと年齢降下してきている。

このように性に対する意識は変化し、その行動は大胆になっている。我々はその時代の情報の中で自分の性に対する意識の基礎を形成し、行動してきたと思われる。つまり、世代によって性意識が異なり、行動も異っているのである。

夜間利用の静的利用、特に恋人たちの利用は古くからあったが、性に対する社会的寛容度の変化

が、恋人たちの利用の形態に変化を持たらしているのである。

4 夜間利用の事例

これから述べる事項は、筆者の卒論¹³⁾をもとに書きなおしたものである。昭和49年夏の調査であるが、これに類する調査がまだみられないため、資料としての価値はあるものとする。この調査は夜間利用の静的な利用の実態を把握するために、平日夜と休日前夜の2回行なったものである。調査公園は新宿中央公園である。

(1) 入園者数

入園者総数は平日夜が1,750人、休日前夜が2,782人で休日前夜が平日夜に比べ約1.6倍と多い。これを時間の推移に沿ってみると、そのピークは平日夜・休日前夜ともに19~20時で、前者は360人、後者は580人である。22時以降急激な減少を示すが、利用者が全くいなくなることはない。(図-2)。

(2) 性別利用状況

入園総数で男女の差をみると、平日夜では男性1,144人、女性606人と男性は女性の約2倍となっている。休日前夜では、男性1,684人、女性1,098人とやはり男性利用者が多いが、女性利用者が平日夜の2倍近くに増えているのは注目に値する。

時間の経過でその推移をみると(図-3)、男女の別なく、平日夜・休日前夜ともに19~20時の利用者が最多となっている。22時頃までは両夜とも男女各々100人以上は利用しているが、休日前夜では23時頃まで100人以上の利用がある。24時以降利用者は急減するが、それ以後も女性の利用者がいる。これはすべてアベックの利用者である。

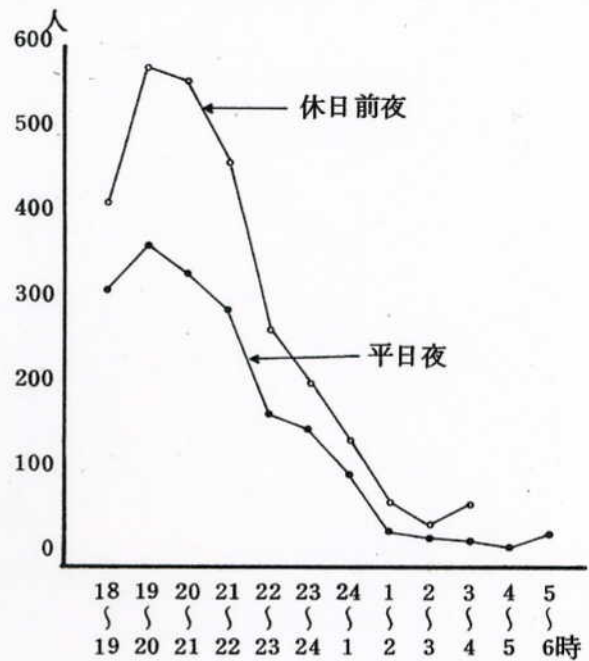


図-2 入園状況

注) 休日前夜の4時以降は雨天のため調査不可能となった。

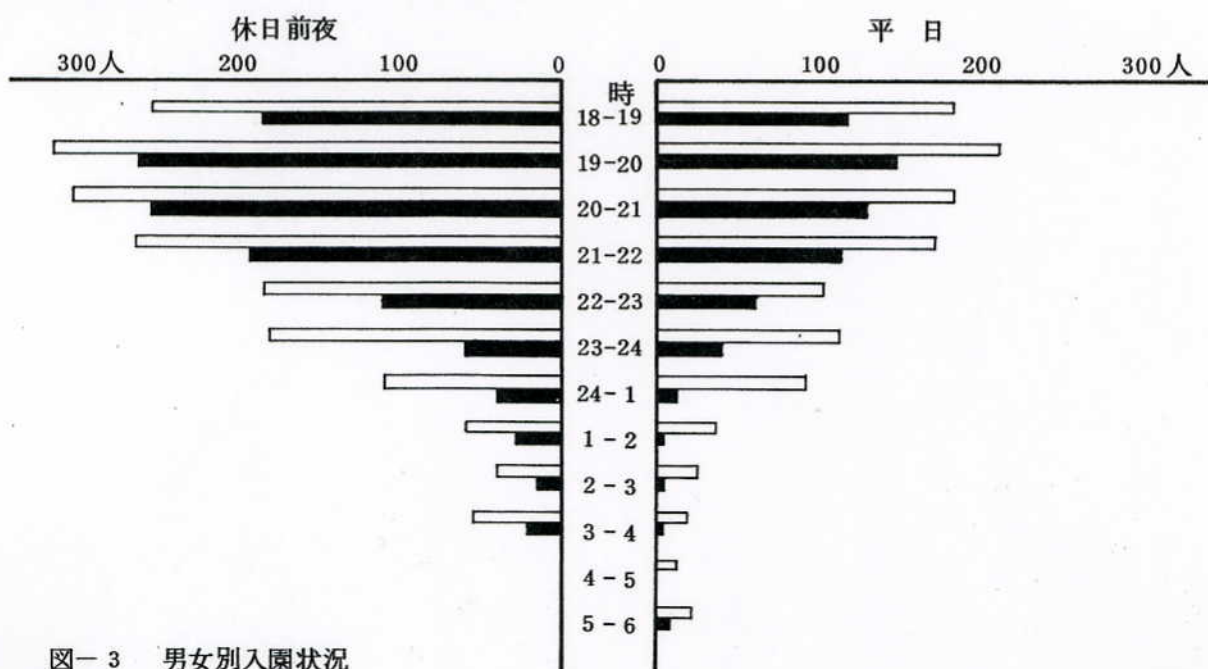


図-3 男女別入園状況

(3) グループ構成

グループ構成をみると、「アベック」「1人」の順で多く、「3人」以上の組は少ない。

「アベック」は、両夜とも最高を示すが、利用のピークは平日夜では19-20時、休日前夜では20-21時で、休日前夜が1時間ほど遅れてピークがやってくる。これは、翌日が休みであるため休日前のデートは平日より遅くまで行なわれるからであろう。

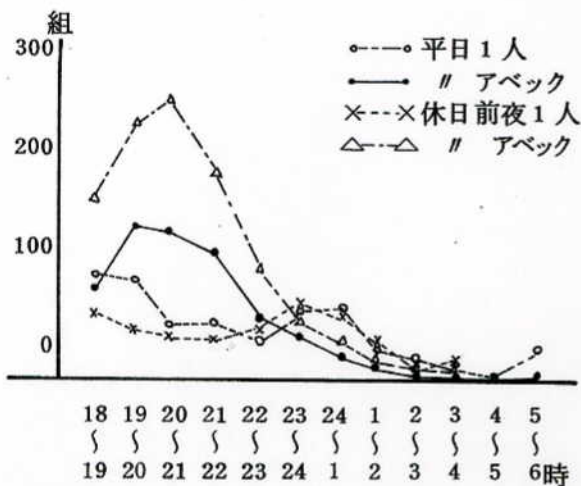


図-4 グループ別利用状況

注) 「アベック」と「1人」のグループだけを抜き出している。

平日夜では22時、休日前夜では23時以降「1人」の利用が主流となる。男性の利用者がほとんどである。「3人」以上のグループは、24時以前の利用がほとんどである。5時以後の増加は、近隣の人々の利用である。

平日夜、休日前夜の違いは量的なものであり、時間による変化の形はほとんど似ている。

(4) 年齢構成

この項目は、調査員の主観に頼っているため客観性を欠くが、表-2によれば、最も多いのが20代で、次は30代、10代の順であった。

表-2 年代別利用数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	102	1,362	194	55	32	5

注) 平日夜調査

20代は18時から翌日の6時まで止絶えることなく利用しているが、10代、30代もほぼ同様である。40代以上では1時~2時頃までの利用がある。5時以後の早朝利用では、やはり20代の利用が多いが、50代以上の利用もある。

(5) 利用行動の実態

夜間利用で行なわれる行為としては、次のようなものがある。

動的→スポーツ・トレーニング等

静的→散策・休息・睡眠・性行為等

その他→のぞき・犯罪(痴漢・おきびき等)

これらの行為は特徴的にあらわれる。夜間の公園の利用行動は、時間帯により全く異なる表情を持っている。このことは平日夜、休日前夜に差はなく同じように変化する。

① 18時前

徐々に入園者が増加する。アベックの中には明るくても性行為(キス程度)をする組もある。

② 18~21時

利用者の出入が激しい。散策・体操・ジョギングなどの行為がよくみられる。暗くなっていくに従って恋人たちの性行為(キス・ペッチング)が目立ち始める。

③ 21~23時

利用者の移動が少なくなり、公園内はおちついた雰囲気を持っているように見える。だが、よく観察するとのぞきや痴漢が彷徨し、その活動も活発になる。

④ 23~2時

利用者が減少し、男性だけの利用が目立つ。アベックの数はかなり少なくなる。また、通り抜けが多い。

⑤ 2~5時

公園内のベンチや芝生地で眠っている人が多い。アベックがいるとかならずのぞきがいる。極少数であるが、同性愛好者、いわゆるオカマ風の者も出現し眠っている人にいたずらしようとする姿も見られる。

⑥ 5時以降

公園内に活気もどってくる。散歩・体操など

をする人々が集まって来る。近隣の住民がほとんどである。

5 夜間利用の問題点

(1) スポーツの場としての利用

最近のスポーツブームは、今や地域の時代を迎え、スポーツを始める動機もテニスみたいにファッション化への憧れというものもあるが、ほとんどが健康とレクリエーションに二分されるだろう。手短かなジョギング、トリムからママさんバレー・草野球チーム・サッカー・ラクビーなどのクラブチームまで各種の団体はかなり存在している。このような人々がスポーツを楽しむには、空間（施設）、利用時間と適切な指導者が必要である。¹⁴⁾

勤労者がスポーツに親しむためには、どうしても社会的拘束から解放されたあと、つまり休日と夜間になってしまう。ところが施設不足から休日は満員という所が多く、必然的に夜間利用が主流とならざるをえない。このことを再認識して、スポーツ欲に答えるだけの運動施設の増設・解放・夜間照明の確保がなされなければならない。加えて近隣公園・地区公園を主軸として都市公園の充実が計られなければならないだろう。



図-5 アベックの利用分布

(2) 恋愛の場としての利用

まずどのような所が利用されているか、その実例をみることにしよう。図-5は前章の調査結果をもとに、アベックの利用する場所を1時間毎にひろい上げ、その総量（休日調査のため18時から4時まで）を図化したものである。これによると全体的に平均して利用されていることがわかる。また、芝生地や樹林地よりベンチ（点のかたまっている所）の利用が多くなっている。

恋人たちは、恋を美しく見せる場所、恋に酔える場所を選ぶ。¹⁵⁾公園は、恋人たちの恋愛の場として世界共通の場所である。公園で恋人たちの取る行動は、昼と夜とでかなり異っている。それは性行動の形態の違いであられる。

モリスによれば、我々人間の性行動の特徴は三つあるという。生物学的に言えば、つがいの形成、交尾前の活動、そして交尾である。¹⁶⁾交尾前の活動から交尾にかけてはプライバシーを必要とするが、つがいの形成は公の場所で行なわれる。恋人たちの行動は、昼間は恋のかたらいからキス程度までであるが、夜間になるとキス・ペッチングなど交尾前の活動が主となる。のぞきや痴漢の話では、性交まで行なう者もいるというが、確かではない。

それでは、プライバシーを必要とする性行為が、なぜ夜間に公の場所である公園で行なわれるのだろうか。その理由は少なくとも三つあるのではなからうか。

第一は夜間であるからである。照明があっても昼より暗く、その暗くなるということが他人をそれほど意識しなくてもよいという安心感を恋人たちに植えつけるのだろう。夜の闇が、四方を壁で仕切ったと同様なプライバシーを恋人たちに与えるのである。

第二は、性行動は恋愛の親密度によって差が出るが、場所によっても違っているということである。たとえば入口付近のベンチなど人の出入りの激しい場所においては、交尾前の活動は行なわれにくい。ある程度のプライバシーが確保されていることと、やはりその空間の質が重要となっているだろう。恋に酔え

る場が必要なのである。このような空間には多くの恋人たちが集まり、独特の雰囲気形成する。

最後に性意識の変化である。恋人たちのこのような性行動を容認できるということは、第2章5節で述べたように、性に対する社会的な制約がゆるめられてきていることを意味している。

公園計画の立場から考えた場合、恋人たちが恋物語をつづけるにふさわしい空間の創出・演出に努力をはらわなければならない。恋人たちの愛を育てていく過程で、公園が何らかの役に立っているのなら、これほどすばらしいことはないのである。ただ、恋人たちの性行動が、痴漢など犯罪の誘因ともなっている以上、恋人たちの性行動の自粛も必要であろう。恋人たちの多くが、公園の夜間利用の現況を理解して行動されることを期待するしかないのが実状である。

(3) 犯罪等について

ここでは、夜間利用に特徴的なものについて述べるが、夜間の都市公園にどのような犯罪が、どの程度発生しているのか、その実態はよくわかっていない。

まず「痴漢」である。公園における痴漢は、夜道や電車のそれとは違って、アベックをその行為

の対象としている。アベックの男性をかくれみのにして、女性の各部に触れ且つ女性の性的興奮を増加させることによって己れの性的満足を得るようである。

前述の調査では21時頃から目立ち始めるが、この時間からそれまでとは全く異った雰囲気を呈するようになる。恋人たちのあまいムードが漂うその裏で、獲物を捜す狼が暗躍しているのである。かれらのほとんどが単独行動を取っているが、たまに2~3人のグループもある。服装は、動きやすく目立たないもの。色は紺系統のものが多い。学生風、サラリーマン風など職業は様々であろう。年齢的には20代以上の男であるが、たまに10代（高校生風）の者もいる。

恋人たちは痴漢にあらうとは思っていないし、また、自分たちが遭遇していることに気付くことは少ない。性行為はプライバシーを必要とする。これは外敵に対して無防備になるためである。痴漢はこの心理をうまく利用しており、相手の男性をかくれみのにするのであるから、手が3~4本あっても女性は気付かないことが多い。いや、両者とも気付かないのがほとんどである。しかし、時には女性の悲鳴が聞こえることもある。これは明らかに痴漢の被害を感じた時である。ところが、こんな場合でも、警察へ届けようとする人はいないようである。

夜間利用では、他の場合と違って多くの人がある現場を目撃しているのだが、それを見て注意しようとする人は少ない。またやっっているなという興味本位的な目で見てしまう人が多いのではなかろうか。また、注意したとしても、痴漢にしかられてしまうのが落である。まさに痴漢天国といえる。

アベックのまわりには、その他に「のぞき」がいる。のぞきは痴漢に移行するための観察のものと、のぞきそのものが目的のもの二種類あるようである。ほとんどが前者で、後者はたまたま通りがかりの人がアベックの性行動の大胆さに興味が引かれ、ついのでいてしまう場合がみられる。



図-6 痴漢が多く集まる区域

のぞきのやり方には、対象を捜しながらのものと、植込の中やベンチの後ろなどに隠れて待っているものがある。

のぞきは我々の永続的な性的好奇心を、他人をまきこむことなしにある程度満足させてくれるためにおこるとい¹⁶⁾う。たとえば、既婚者が浮気をすれば、配偶者と浮気の相手をまきこんで、複雑な問題を発生させる。これを避けるための行動がのぞきというわけである。したがって、のぞき行為は生物学的には異常だが、比較的無害だとい¹⁶⁾う。

のぞきは、公園においては犯罪といえない行為ではあるが、その姿をみていると不快感が残る。

その他には同性愛好者や「おきびき」などの窃盗犯罪がある。また、特に夏場は浮浪者の住処ともなっている。

(4) 保安対策

夜間利用における保安対策は、照明施設と警察によるパトロールである。照明施設については後述するので、警察のパトロールについて考えてみたい。

警察のパトロールを観察してみると、三つの形態があるように思われる。拡声器による注意、徒歩によるもの、パトロールカーによるものがそれである。

このようなパトロールから感じることは、公園利用する者にとっては、負に作業しているのではないかということである。夜間、拡声器による注意は、騒音により利用しようという気持ちが殺がれてしまう。また、特にパトロールカーによるものは、一般利用者へも一種の威圧感があり、利用者に不安を与えている。これは、公園内で事件が発生したのではないかという不安と、明治以来の権力への服従心が、警察に恐いという心理を我々の心の底に植えつけたためにおこる不安である。

「休み時間を利用してパトロールしている。」というある警察官の言葉が示すように、現在の警察は、公園内だけがその職域ではないため、おのずとそのパトロールには限界があるだろう。恋人たちの行動が、美しい夜の公園風景として安心して見れるようになるためには、公園警察¹⁷⁾の存在が必

要ではなからうか。

また、利用者側の努力も必要である。それはどんな些細な事でも被害届を出すことである。黙っていることが、犯罪者をのさばらす一因となっているからである。

(5) 公園計画と夜間利用

① 照明施設

都市公園における照明の役割は、利用度を高めること、空間の演出、保安の三点にある。したがって、光の質はこれらの用途に合致していなければならない。スポーツ利用の場合は、量の確保はもちろんのこと利用者の目の位置との関係があるし、防犯上からは均一な明るさが必要となろう。

恋愛の場としての利用には、照明による演出は効果が大きいだろう。明暗の調節、対比、光源の位置の変化、時には色彩を使ってその演出方法をもっと研究^{5) 18) 19)}しなければならない。

また、自然光の利用も考えてみるとおもしろいだろう。都市ではわからなくなってきた月光が、驚くほど明るく昼とは別の世界を創造しうることを認識すべきである。

② 夜間利用と植栽

植栽は、公園の美を構成する大切な要素である。これと夜間利用との間にどのような関係があるのだろうか。

一つだけわかっていることがある。それは植栽地の裸地化現象である。夜間利用（特に静的利用）が行なわれている公園の裸地化現象の共通点は、次のようである。

- 芝生地よりも樹林地に裸地化が多い。
- 裸地化部分の前には、植込をはさんでベンチがある場合が多い。
- アベックのよく集まる場所の周辺に多い。

昼間の利用者は、動線的にまちがいがあれば良だが、毎日植栽の中に入って休んだり、遊んだりする事は少ない。このような裸地化は、痴漢やのぞきによって発生する。図-7でもわかるように、アベックの多くはベンチや芝生地を利用し、樹林地を利用する者は少ない。暗い場所へ行く必要はないのである。



図-7 植栽地の裸地化現況図

痴漢たちは、アベックに気付かれないために、身を隠す場所・物が必要である。そのために、植栽地内に侵入する。ベンチは植栽に対して背を向けて配置されていることが多いが、これは、アベックの目を気にしなくてもよいことになり、痴漢たちの活動に役立っている。

植栽の密度、樹種の選定など、植栽計画の夜間利用に対する配慮がほしい。

6 おわりに

これまで述べてきたことは、都市公園の夜間利用についての序論的な考察にすぎない。まだまだ調査研究がなされなければならない。ただ、夜間利用は、これからも都市民にとって重要な公園利用の形態であるので、このことを多くの人々に認識していただきたいと思うのである。そして、この問題と取組んでもらいたいのである。そのことが、いままでとは一味違った空間の創造につながるようになるかと考えている。

また、昭和56年度から始まる第3次公園5箇年計画では、基幹公園の整備、運動施設の整備も行

なわれることになっているが、夜間利用の重要性を考慮して推進されることを期待したい。

引用・参考文献

- 1) 建設省都市局公園緑地課 都市公園利用実態調査 公園緑地 1977 Vol 33 №3 PP 70~84 など
- 2) 田中正大 日本の公園 鹿島出版会1974
- 3) 野口武徳 猥褻観の発生 現代のエスプリ №98 1975 PP 162~169
- 4) ローレンス・ハルプリン 伊藤ていじ訳 都市環境の演出 彰国社 1973
- 5) NHK放送世論調査所篇 日本人の生活時間 1970 現代のエスプリ №52 1971 PP 52~66
- 6) 新福尚武 睡眠と人間 NHKブックス 1976
- 7) NHK放送世論調査所篇 現代日本人の意識構造 NHKブックス 1980
- 8) ESD総合研究所 花鳥山脈基本構想報告書1977
- 9) 朝日新聞 ひろがるトリム(2) 1975. 4. 10
- 10) 渡辺達三 古代の広場 造園雑誌 1972 Vol 33 №3 PP 30~36
- 11) 畑下一男 現代人の性意識 現代のエスプリ №98 1975 PP 5~19
- 12) 村松博雄 現代青少年の性意識と性行動 現代のエスプリ №98 1975 PP 5~19
- 13) 及川純一 都市公園の夜間利用の実態調査 日本大学卒論 1975. 3
- 14) 日本経済新聞 亭主族にも間口を 1976. 6. 20
- 15) yuyu ヨーロッパの恋人たち №49 1976. 6. 14
- 16) デズモンド・モリス 日高敏隆訳 裸のサル 河出書房新社 1975
- 17) 関口鉄太郎編 造園技術 養賢堂 1972
- 18) プレンダ・コルビン 佐藤昌他訳 土地とランドスケープ 公園緑地協会 1973
- 19) 横山光雄 私の考える都市公園 公園緑地 1973 Vol 34 №1 PP 45~49